

川崎市文化協会会長賞受賞作品

「川崎の未来 自分の未来」

川中島小学校 5年 中村 実生

最近の川崎は、とても都市化が進んでいるように思います。例えば、駅前には高そうマンションがいくつも建ったり、小さなお店がつぶれたりして、景色が変わってきました。でも景色の変化より、もっと気になっているのは、発てんとともに“本を読む”という文化がうすれてきてしまっているのではないか、という事です。

私は本を読む事が大好きです。よく行っていた近所の本屋さんがなくなってしまったため、今は、図書館をまるで自分の家の本だのように、よく利用しています。新しくキラキラした本たちとの出会いは減りましたが、図書館の本のにおいや、静けさも好きです。毎週どっさり借りてきて、すきま時間には、ゆかなどにゴロンとしながら本の世界に入りこみます。幸せなひとときです。集中しすぎて、お母さんに話しかけられても、気付かない事もあるようです。読書は、現実ではやったことのない事を体験できたり、イヤな事やめんどろな事を少しの間わすれられたりして、私にとっては一種のストレス発散法なのかもしれません。そして、読み終わった後の達成感、そうかい感は格別です。

ニュースで“活字ばなれ”や“スマホいぞん”と聞いた事がありますが、確かに、電車に乗っても道ばたでも、だいたいみんなスマホをいじっていてゲームをしたり、何かを読んだりしています。スマホでも本が読めると聞いてびっくりしましたが、これも科学の進歩の一つです。そんな中、最近はお店さんとカフェがセットになったおしゃれなお店がはやっているのだそうです。リラックスしたい時には、あえて紙の本がいいのかな。他にも、インスタントカメラや、レコードのような昔の物が見直されているというのも、私には少し分かる気がします。発展して便利なものはたくさんあるけれど、それが心地いいというわけではないのかもしれない。川崎は、キングスカイフロントなどもできて最先たんの地域ですが、いつまでも「発展しているけど昔の文化も忘れない」心地よい街であってほしいです。

私はしょうらい、日本一のぞう書数をもつ国会図書館の職員になりたいと思っています。大好きな本のみりよくをみんなに知ってもらいたいし、本を通して、川崎の未来を支えるお手伝いができるとうれしいです。そのために、これからもたくさん本を読んで、力をつけていきます。